

CustomMenu 取扱説明書

CustomMenu は、Windows エクスプローラーの右クリック（コンテキスト）メニューを、レジストリの読み書きによって自由にカスタマイズできる Windows デスクトップツールです。

目次

1. このアプリでできること
 2. 動作環境
 3. インストール・アンインストール方法
 4. 起動画面の見かた
 5. 右クリックメニューに項目を追加する（メニュー追加タブ）
 6. 追加した項目を管理する（メニュー管理タブ）
 7. Windows標準の項目を非表示にする（デフォルト項目の非表示タブ）
 8. その他の設定
 9. 困ったときは
 10. 配布形態（体験版・製品版）
 11. 作者への連絡先
-

1. このアプリでできること

- ファイルやフォルダ、デスクトップ、ドライブを右クリックしたときに出てくるメニューに、**自分だけのオリジナル項目を追加**できます（例: 「メモ帳で開く」「VSCodeで開く」など）。
- 登録したいアプリは、**名前で検索して自動でパスを入力**できます。実行ファイルがどこにあるかを調べる必要はありません。
- 追加した項目は、あとから**一時的に隠す・再表示する・削除**することができます。
- 「共有」「以前のバージョンの復元」といった **Windows標準の項目**を、右クリックメニューから消すこともできます（この機能のみ管理者権限が必要です）。

管理者権限がなくても（通常のユーザーのままで）、メニューの追加・削除・非表示/表示の 基本操作はすべて行えます。管理者権限が必要なのは「5. Windows標準の項目を非表示にする」機能だけです。

2. 動作環境

- **対応OS**: Windows 10（ビルド 17763 以降） / Windows 11、いずれも **64bit (x64)** 版のみ。
 - **権限**: メニューの追加・削除・非表示/表示など基本操作は**管理者権限不要**です。通常のユーザー権限のまま起動し、自動的に管理者へ昇格することはありません。「5. Windows標準の項目を非表示にする」機能（管理者専用）を使う場合のみ、アプリ内の「管理者として再起動」ボタンから管理者権限で再起動してください。
 - **実行環境**: 自己完結型（セルフコンテナンド）でビルドされているため、.NET ランタイムを別途インストールする必要はありません。
-

3. インストール・アンインストール方法

インストール

1. 配布された **customMenu_Setup.exe**（体験版は **customMenu_Trial_Setup.exe**）を実行します。
2. インストーラーの案内に従って進めます。管理者権限は必須ではないため、「自分のみにインストール」または「すべてのユーザー用にインストール」を選べます。
 - インストール先は既定で「自分のみ」の場合はユーザーのアプリフォルダ、「すべてのユーザー用」の場合は **C:\Program Files\customMenu** です。
3. 必要であれば「デスクトップにアイコンを作成する」にチェックを入れます。
4. 完了画面で「CustomMenu を実行する」にチェックを付けると、そのまま起動します。

体験版と製品版は別アプリ（別フォルダ・別ショートカット）として共存できます。体験版を試したあとに製品版へ切り替える場合、体験版を先にアンインストールする 必要はありません。

アンインストール

1. Windows の「設定」→「アプリ」→「インストールされているアプリ」の一覧から **CustomMenu**（体験版の場合は「CustomMenu (体験版)」）を探します。
2. 「アンインストール」を選び、案内に従って進めます。
 - スタートメニューのプログラムグループにある「Uninstall」からも実行できます。
3. アンインストールが完了すると、追加した右クリックメニュー項目もあわせて削除されます。

「デフォルト項目の非表示」タブで非表示にした Windows 標準の項目や、「その他の設定」タブでの変更（従来のコンテキストメニュー等）は、アンインストール前に必要に応じて元の状態へ戻しておくことをおすすめします。

4. 起動画面の見かた

CustomMenu を起動すると、上部に3つのタブが並んでいます。

タブ名	できること
メニュー追加	新しい右クリックメニュー項目を作る
メニュー管理	追加した項目の一覧表示・非表示切替・編集・削除
デフォルト項目の非表示	Windows標準の右クリック項目を消す/戻す（管理者権限が必要）

画面いちばん下にはステータスバーがあり、操作結果（「メニューを追加しました。」など）が表示されま

す。

5. 右クリックメニューに項目を追加する（メニュー追加タブ）

入力する項目の意味

項目	説明
適用先（ファイル/フォルダ/デスクトップ/ドライブ）	このメニューをどこを右クリックしたときに出すか。複数選択可
メニューに表示される文言	右クリックメニューに実際に表示される名前

項目	説明
実行される内容	クリックしたときに起動するアプリ（パスまたはコマンド）
標準アプリケーション	よく使うアプリ（メモ帳、電卓など）をワンクリックで設定できるボタン
インストール済みアプリを検索	パソコンに入っているアプリを名前で探して、実行ファイルのパスを自動入力する欄
引数（オプション）	アプリに渡す追加のオプション。 %1 と書くと、右クリックしたファイル/フォルダの

パスに自動的に置き換わります（未入力の場合は自動で末尾に追加されます）

例①: ファイルを「メモ帳」で開くメニューを追加する

もっとも簡単な例です。標準アプリケーションのボタンを使うので、コマンドを自分で入力する必要はありません。

1. 「メニュー追加」タブを開きます。
2. 適用先で「**ファイル**」にチェックを入れます（フォルダも同時に対象にしたい場合は「フォルダ」も追加でチェックします）。
3. 「標準アプリケーション」欄の「**メモ帳**」にチェックを入れます。
 - 「実行される内容」に自動で `notepad.exe` が入力されます。
 - 「メニューに表示される文言」が空欄なら自動で「メモ帳で開く」と入力されます。
4. 文言を好きな名前に変更したい場合は「メニューに表示される文言」欄を書き換えます（例: 「メモ帳で強制的に開く」）。
5. 「メニューを追加」ボタンをクリックします。
6. ステータスバーに「メニュー 'メモ帳で開く' を追加しました。」と表示されれば成功です。
7. エクスプローラーで適当なファイルを右クリックすると、「メモ帳で開く」という項目が追加されているのが確認できます。

例②: アプリ名を検索して登録する（インストール済みアプリの検索）

パソコンにインストール済みのアプリなら、実行ファイルがどこにあるか分からなくても、**名前の一部を入力するだけ**で探して設定できます。

1. 「メニュー追加」タブを開きます。
2. 適用先で「**ファイル**」にチェックを入れます。
3. 「インストール済みアプリを検索」欄に、アプリ名の一部を入力します（例: `chrome`、`メモ帳`、`vscode`）。
 - 入力するそばから、すぐ下に候補の一覧が表示されます。
 - 一覧にはアプリ名と、その実行ファイルの場所（フルパス）が並びます。
4. 一覧から目的のアプリを**クリック**します。
 - 「実行される内容」に実行ファイルのフルパスが自動で入力されます。
 - 「メニューに表示される文言」が空欄なら、「(アプリ名)で開く」が自動で入ります。
5. 必要に応じて文言を書き換え、「メニューを追加」ボタンをクリックします。

検索のコツ

- **大文字/小文字・全角/半角・カタカナ/ひらがなの違いは無視されます。**「CHROME」でも「めもちょう」でも同じように見つかります。
- **空白で区切ると絞り込みができます。**例えば `google chrome` と入力すると、「google」と「chrome」の両方を含むアプリだけが表示されます。
- 候補が多すぎるときは、文字を追加していくと絞り込まれていきます。

キーボードでの操作

キー	動作
↓ (下矢印)	候補の一覧へ移動する
Enter	先頭の候補を選ぶ
Esc	検索欄を空にする

検索欄の右にある「クリア」ボタンでも、入力内容を消せます。

知っておくとよいこと

- アプリの一覧は、CustomMenu の起動時にバックグラウンドで読み込まれます。起動直後は「インストール済みアプリを読み込み中...」と表示されることがありますが、しばらくすると「〇〇件のアプリから検索できます。」に変わり、検索できるようになります。
- 検索対象は**デスクトップアプリ (.exe形式)** だけです。Microsoft Store から入手したアプリ（新しい「電卓」「フォト」など）は実行ファイルを持たない仕組みのため、候補には表示されません。
- アンインストーラーやセットアップなど、メニューに登録する意味が薄いものはあらかじめ候補から除外されています。

例③: 好きなアプリ（例: Visual Studio Code）をフォルダの右クリックに追加する

検索で見つからないアプリや、場所を自分で指定したい場合は、「参照」ボタンで実行ファイルを指定します。

1. 「メニュー追加」タブを開きます。
2. 適用先で「**フォルダ**」にチェックを入れます。
3. 「メニューに表示される文言」に `VSCodeで開く` のように、右クリックメニューに表示したい名前を入力します。
4. 「実行される内容」の右にある「**参照...**」ボタンをクリックし、`Code.exe` (VSCodeの実行ファイル) を選択します。
 - パスが分かっている場合は直接テキストボックスに入力してもかまいません。
5. 引数は空欄のままで構いません。空欄の場合、フォルダを右クリックしたときに選んだフォルダのパスが自動的にアプリへ渡されます（内部的には `"%1"` が末尾に付きます）。
6. 「メニューを追加」ボタンをクリックします。
7. 好きなフォルダを右クリックし、「VSCodeで開く」からVSCodeが開けば成功です。

ポイント（適用先の違い）

- **ファイル:** すべてのファイルを右クリックしたときに表示

- **フォルダ**: フォルダを右クリックしたときに表示
- **デスクトップ**: デスクトップの何もない場所を右クリックしたときに表示（この場合のみ引数に %1 は使えません／自動付加されません）
- **ドライブ**: 「PC」に表示されるドライブアイコンを右クリックしたときに表示

6. 追加した項目を管理する（メニュー管理タブ）

「メニュー管理」タブを開くと、これまでに追加したメニュー項目が一覧表示されます。

列	説明
表示（トグルスイッチ）	オンなら右クリックメニューに表示中、オフなら非表示中
メニュー名	表示される文言
コマンド	実際に実行されるコマンド
適用先	ファイル/フォルダ/デスクトップ/ドライブ

例①: 項目を一時的に非表示にする

削除はせず、あとで戻せる形で一時的に隠したい場合はこちらを使います。

1. 「メニュー管理」タブを開きます。
2. 非表示にしたい項目の行にある**トグルスイッチをオフ**にします。
3. ステータスバーに「メニュー '（項目名）' を非表示にしました。」と表示され、右クリックメニューからその項目が消えます。
4. 再び表示したくなったら、同じ行の**トグルスイッチをオンに戻す**だけで復活します。

例②: 不要になった項目を完全に削除する

1. 「メニュー管理」タブで削除したい項目の行をクリックして選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックします。
3. 「メニュー '（項目名）' を削除しますか？」という確認ダイアログが出るので「はい」を選びます。
4. 一覧から項目が消え、右クリックメニューからも完全に削除されます。

削除は元に戻せません。まだ使うかもしれない項目は、削除ではなく上記①の「非表示」を使うことをおすすめします。

例③: 登録した内容を編集する

1. 編集したい項目をリストの中で**ダブルクリック**します（または選択して「編集」ボタン）。
 - 非表示中の項目は編集できません。先にトグルスイッチをオンにしてから編集してください。
2. 画面が自動的に「メニュー追加」タブに切り替わり、上部に「編集モード: '（項目名）' を編集集中」と表示されます。
3. 内容を書き換えたら「変更を保存」ボタンをクリックします。
4. 編集をやめたい場合は「キャンセル」ボタンで編集モードを終了できます。

一覧の内容が最新でないと感じたときは「更新」ボタンで再読み込みできます。

7. Windows標準の項目を非表示にする（デフォルト項目の非表示タブ）

「共有」「以前のバージョンの復元」など、**Windows自体が最初から持っている右クリック項目**を 消したいときに使うタブです。この機能だけは**管理者権限が必要です**。

管理者権限を有効にする

タブの上部に「管理者権限: 無効（管理者専用項目は無効化）」と表示されている場合、スイッチはすべて操作できない状態（グレイアウト）になっています。

1. 画面上部の「**管理者として再起動**」 ボタンをクリックします。
2. Windowsの確認画面（UACダイアログ）が出るので「はい」を選びます。
3. アプリが管理者権限で再起動し、「管理者権限: 有効」と表示されればOKです。

例: 「共有」をメニューから消す

1. 「デフォルト項目の非表示」タブを開きます。
2. 一覧から「共有」の行を探し、**トグルスイッチをオフ（左側）**にします。
 - スwitchは **オン（右） = 表示 / オフ（左） = 非表示** です。
3. 「更新」ボタンをクリックします。
4. 「Explorerを再起動して変更を反映しますか？」と確認されるので「はい」を選びます。
 - デスクトップの画面が一瞬消えますが、すぐに元に戻ります。これは変更を 反映させるための正常な動作です。
5. ファイルやフォルダを右クリックし、「共有」が表示されなくなっていれば成功です。

再表示したい場合は、同じ手順でトグルスイッチをオン（右側）に戻し、「更新」から Explorerを再起動してください。

「はい」を選ばずに更新のみ行った場合、変更はすぐには反映されません。ステータスバーに「変更を反映するにはExplorerの再起動が必要です。」と表示されるので、あとで手動でサインアウト・再起動するか、もう一度「更新」から反映してください。

8. その他の設定

画面下部には、次のチェックボックスがあります。

- 「**従来のコンテキストメニューを使用する（Win11用）**」 Windows 11 で簡略化された右クリックメニューを、Windows 10 までの「フルメニュー」表示に戻すオプションです。チェックを入れる/外すと、ステータスバーに反映方法（サインアウトまたは再起動が必要）が表示されます。

9. 困ったときは

- **メニューを追加したのに右クリックしても出てこない** → 一度エクスプローラーの画面を閉じて開き直すか、パソコンを再起動してみてください。
- **アプリを検索しても候補に出てこない** → 次の可能性があります。
 - Microsoft Store から入手したアプリ（新しい「電卓」「フォト」など）は、仕組み上この検索では見つかりません。

- スタートメニューにショートカットが登録されていないアプリは見つからないことがあります。この場合は「参照...」ボタンから実行ファイルを直接選んでください。
- 別の言い方でも試してみてください（例:「クローム」ではなく **chrome**）。
- 「インストール済みアプリを読み込み中...」から変わらない → 読み込みには数秒かかることがあります。しばらく待っても変わらない場合は、「参照...」ボタンから実行ファイルを直接選んでください。
- 「レジストリへの書き込み権限がありません」と表示される → 通常のメニュー追加・削除・非表示/表示には管理者権限は不要です。エラーが出る場合は、セキュリティソフトの制限や特殊なユーザー環境の可能性があります。
- 「デフォルト項目の非表示」タブのスイッチが操作できない → 管理者権限で起動されていません。「管理者として再起動」ボタンを押してください。
- 変更したのに右クリックメニューに反映されない（デフォルト項目の非表示タブ） → Explorerの再起動、またはサインアウト・再ログインが必要です。「更新」ボタンから再起動するか、手動でサインアウトしてください。
- 体験版で「お試し期間終了」と表示されて起動できない → 引き続き使用するには製品版の購入が必要です。表示されたリンクから購入ページを開けます。

10. 配布形態（体験版・製品版）

CustomMenu は次の2つの形態で配布されています。

- **体験版（TRIAL版）**：機能は製品版と同じですが、**お試し期間は5日間**です。期間終了後は、引き続き使用するために製品版の購入が必要です。
- **製品版（通常版）**：期間制限のない**買い切り版**（価格 200円）です。

いずれも下記の配布ページからダウンロードできます。

- ダウンロード・購入: <https://nori33.booth.pm/items/7291320>

体験版について

- **起動時のオンライン確認**: 体験版は起動のたびにインターネット経由でお試し期間を確認します。そのため、**起動時にインターネット接続が必要です**。認証サーバーに接続できない場合はアプリを起動できません。
- **残り日数のお知らせ**: お試し期間の残りが5日以下になると、起動時に残り日数が通知され、ステータスバーにも「体験版 - 残り N 日」と表示されます。
- **期限切れ**: お試し期間が終了すると、専用の案内ウィンドウが表示され、そのままではアプリを起動できなくなります。ウィンドウ内のリンクから購入ページへ進めます。
- 購入すると、期間制限のない製品版をご利用いただけます。

11. 作者への連絡先

ご意見・ご要望・不具合報告は、以下の連絡先までお願いします。

- **メール**: nori3.dev@gmail.com
- **X（旧Twitter）**: <https://x.com/nori91407752>